

令和6年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物（指導について）

指導者 Bグループ 府中町立府中小学校 高竹 萌々花
指導学年 第1学年3組 32名

1 単元名及び教材名

めざせじどう車マスター！ じどう車カードをつくろう
「じどう車くらべ」（光村図書「こくご 一下 ともだち」）

2 児童観

本学級の児童は、これまでに説明的な文章「つぼみ」と「うみのかくれんぼ」の学習で、「問い」と「答え」の関係を基に、文末表現に着目しながら問いの文と答えの文を見付け出して読むことを学習している。また、挿絵と文章を照らし合わせながら書かれている内容の大体を動作化しながら捉えることで、文章の内容を正確に理解することができるようになってきている。しかし、すらすら読める児童もいれば、まだ「拾い読み」の段階にあり、内容の理解に至るまで時間がかかる児童もおり非常に個人差が大きい。

考えの形成の学習においては、「うみのかくれんぼ」で、はまぐり・たこ・もくずしよいのかくれ方について初めて知ったことと自分の経験を結び付けて感想をもつ活動を取り入れた。自分の経験や本で読んだことなどを思い起こすことが難しい児童は32人中5人であった。その児童には個別に声掛けを行い、一緒に知識や経験を思い起こす手立てを講じた。また、文章の内容に対して思いをもつことはできているが、文章の内容と既存の知識や経験とをどのように結び付けて解釈したのかを表現することに難しさが見られた児童は、11人であった。

3 指導観

指導に当たっては、単元の導入で教師から児童に「じどう車クイズ」を出し、児童の既存の知識や経験を想起させる。単元の始めに、文章の内容に関わらず知っている自動車について自由に交流する時間を設ける。その中でどうして自動車は様々な形をしているのかという疑問から、教材文や自動車についての一般図書を読んで問題解決を行っていく意欲をもたせ、自動車の「しごと」とそれに照応する「つくり」を整理する学習へとつなげていく。また、単元が始まる前から乗り物に関する本を教室に用意して並行読書をするすることで、興味関心を引き出し、児童が調べたいと思った時にすぐに本を手にとれる環境を整えておく。

文章の内容を精査・解釈できるようにするために、「しごと」と「つくり」の関係について本文と挿絵から読み取っていく。情報と情報との関係を整理するために色分けをする活動を設定する。文の表現に着目して色分けをしながらサイドラインを引くことを通して、語や文のまとまりを意識した読みができるようにしていく。「そのために」という言葉を手掛かりとして「しごと」と「つくり」についての大事な語や文を考えて選び出し、ワークシートにまとめることができるようにする。また、動作化を取り入れながら書かれている内容の大体を具体的に読み取っていけるようにしたい。

考えの形成については、教材文に出てくる3つの自動車の中から、「しごと」と「つくり」について学んで紹介したいと思った自動車を1つ選び、自分の経験と結びつけながら感想をもち、ワークシートにまとめる活動を取り入れる。「しごと」「つくり」「じぶんがしていること・けいけんしたこと」「まえよりわかったこと」「かんそう」という項目を設定し、選んだ自動車と既存の知識や経験を結び付けて解釈することができるようにする。表現することが難しい児童には、単元の導入で挙げていた経験を思い起こしながら、学んだこととの共通・相違などのつながりを考える声掛けを行う。

終末には、「じどう車カードをつくって、ともだちやお家の人にしょうかいしよう。」という言語活動を設定する。図鑑や資料から情報を選び出す際に、ただ書き写すのではなく、「しごと」と「つくり」の視点から重要な語や文を選び出し、教材文で学んだ文章構成を手本として表現の仕方考えることができるようにする。終末にかけて学んだことを価値付けながら、「じどう車マスターになる」という活動目標を児童に明示し、意欲をもって粘り強く取り組むことができるようにする。

4 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法 等
一	1	○学習の見通しをもつ。 ・「じどう車クイズ」を出し、知っている自動車について話し合う。 ・教師の範読を聞く。 ・自動車には様々な違いがあることを確認し、単元の学習課題と学習計画を立てる。				
二	2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	○教材文「じどう車くらべ」を読み、文章構成を捉える。 ・「問い」と「答え」の関係を整理する。 ・バスやじょうよう車の「しごと」と「つくり」を読み取り、表に整理する。 ・トラックの「しごと」と「つくり」を読み取り、表に整理する。 ・クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取り、表に整理する。		○		[思考・判断・表現①] <u>ワークシート</u> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 ※ここでは、指導に生かす評価に留める。
	6	○4つの自動車の共通点・相違点を整理し、話し合う。	○			[知識・技能①] <u>ワークシート・発言</u> ・共通、相違など情報と情報との関係について理解している。
三	7 (本時)	○バス、じょうよう車、トラック、クレーン車の「しごと」と「つくり」の関係について、自分の経験と結びつけながら感想をもつ。 ・自分の普段乗っている自家用車など、既存の知識や経験と結びつけて解釈し、感想をもつ。		○		[思考・判断・表現②] <u>ワークシート</u> ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもっている。
	8 ・ 9	○乗り物に関する本や図鑑を読み、「じどう車カード」をつくる。 ・自分が紹介したい自動車の「しごと」と「つくり」について、本や図鑑の中から大事な文を選び出す。 ・調べて本や図鑑から選び出した語や文を、「しごと」と「つくり」に分けてワークシートにまとめる。		○		[思考・判断・表現①] <u>ワークシート</u> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
	10 ・ 11	○自分が調べた自動車について、児童が乗ったことのある車における経験と結び付けて解釈し、感想をもつ。 ○「じどう車カード」を交流し、クラスオリジナルの「じどう車ずかん」をつくる。			○	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>児童の様子</u> ・粘り強く、文章の内容と自分の体験を結び付けて、自分の考えや感想を自動車カードにまとめようとしている。
	12	○学習の振り返りをする。 ・互いの感想を交流し、本単元で学んだこととこれからの学習で生かしたいことについて振り返る。				

5 本時の学習

(1) 本時の目標

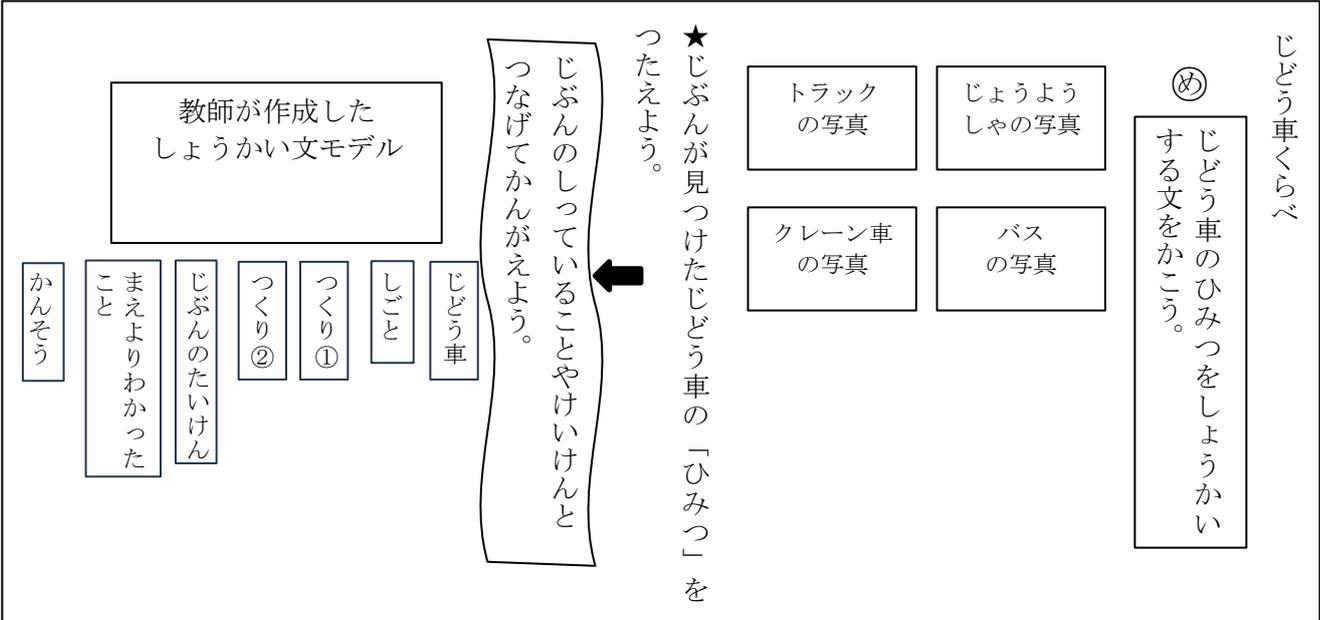
自動車の「しごと」と「つくり」について、自分の既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈し、考えたことを表現することができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1. 学習の見通しをもつ。	<p>○前時にまとめた自動車の「しごと」と「つくり」についてのワークシートと、単元計画を振り返り、本時の学習の見通しをもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな自動車の「しごと」と「つくり」をみつけたよ。 ・自動車は、「しごと」に合わせた「つくり」になっていたよ。 <p>□自動車マスターへの道として、まずは、自動車のひみつをしょうかいするカードをつくりましょう。 これまでにじどう車の「しごと」と「つくり」について学んだことと、自分が見たり乗ったりした経験をつなげて、さらに見つけたじどう車のひみつをカードにまとめましょう。</p> <p>○教師が作成したじどう車カードの例を提示し、見通しをもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生みたいにつくってみたいな。 	
2. 本時のめあてを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> じどう車のひみつをしょうかいするカードをつくろう。 </div>	
3. 教材文に出てくる自動車の中から、紹介したい自動車を選ぶ。	<p>□自分が見たり乗ったりしたことのあるじどう車はどれでしょう。そのじどう車についてしょうかいカードをつくっていきましょう。</p> <p>□選んだ自動車はどのような「しごと」と「つくり」をしていましたか。教科書の文を確認しましょう。</p> <p>○「しごと」と「つくり」は前時までの学習や本文の内容をもとにして考えられるようにする。</p> <p>◆前時までの学習の足跡を掲示しておくことで、大事な言葉を選び出す際にいつでも確認できるようにしておく。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> じどう車 トラックは しごと にもつをはこぶしごとをしています。 そのために つくり① ひろいにだいになっている。 つくり② タイヤがたくさんついている。 </div>	
4. 選んだ自動車の「しごと」と「つくり」について自分の知識や体験と結び付けて感想を書く。	<p>○自分が実際に乗った経験や見たり聞いたりしたことなどをつなげて解釈を深める。</p> <p>□自分が実際に乗った経験や知っていたこととつなげて、まえより分かったことや感想を書きましょう。</p> <p>◆実際の経験を思い起こすことが難しい児童には、自家用車と比べて共通点・相違点を見付けるように個別に声を掛ける。</p> <p>◆教材文に出てくる自動車の写真とともに、町でよく見られる自動車の写真も並べて掲示しておくことで、学級全</p>	<p>〔思考・判断・表現②〕 ワークシート 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもっている。</p>

<p>5. 本時の振り返りを行い、次時の活動への見通しをもつ。</p>	<p>体で日常生活とつなげたイメージを共有することができるようにする。</p> <p>◆写真を使った視覚的支援によって、本文に書かれている「しごと」と「つくり」について捉えることができるようにする。さらに、経験することで気付いた「つくり」の工夫を見つけることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひっこしのトラックをみたことがある。大きなにもつでもすぐにいれたりだしたりすることができるように、にだいがひろくつくってあるのだとわかりました。にだいにとびらがついているのがあるけど、なぜなのかきになったからもっとしらべたいとおもった。 ・じぶんのいえの車は、タイヤが4つあってクレーン車と同じだ。でもいえの車はのっているときに、じぶんがうごくときもゆるることがある。だからクレーン車には、かたむかないようにしっかりしたあしがひつようなんだとおもった。 <p>□今日の学習でがんばったことを振り返りましょう。次の学習でやってみたいことも書きましょう。</p> <p>○本時のつけたい力に沿って振り返りができるように、振り返りの視点を設ける。</p> <p>○次時の活動への意欲をもつことができている児童を評価し、声掛けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じぶんがのったことのある車とくらべてじどう車のひみつを見つけることができました。 ・ほかにもいろいろなじどう車のしごととつくりをしらべてみたいです。 	
-------------------------------------	--	--

(3) 板書計画



6 指導の実際

(1) 指導上の工夫

① 児童の興味・関心を引き出す導入の工夫

単元の導入で、「自動車クイズ」を出し、自動車について児童に興味・関心をもたせる工夫を行った。シルエットクイズを行うことで、「パトカーだ!」とワクワクしながら自動車の名前を答える様子が見られた。さらに、タイヤの数や荷台などの「つくり」の工夫と、どんな「しごと」をする車なのかについて問いながら、既存の知識や経験を自然とつぶやき合うことができた。



写真1 シルエットクイズのパトカー

② 学習環境づくりの工夫

単元が始まる前から、乗り物に関する本や図鑑を教室に並べておき、並行読書を行った。児童がいつでも本を手にとることができるようにして、様々な自動車のしごととつくりについて調べることができる環境づくりを工夫した。学校図書館だけでなく、町立図書館とも連携を行い、多くの種類の本を借りて授業に活用することができた。複数の本を比べながら調べ学習を行うことは、児童が多くの情報の中から必要な情報を選び出す力を育成することにもつながったと考える。



写真2 学校図書館の本



写真3 町立図書館の本

教室には、教材文に出てくる自動車の「しごと」と「つくり」についてまとめたものを掲示した。児童が掲示物を見ながら学習したことをすぐに振り返ることができるようにした。さらに単元が始まる前に、児童の既にもっている知識や経験を出して掲示した。授業の中で自分の考えにつなげるきっかけにしたり、単元が進むにつれて、自分の知識や考えが深まっていくことを感じたりできるようにした。

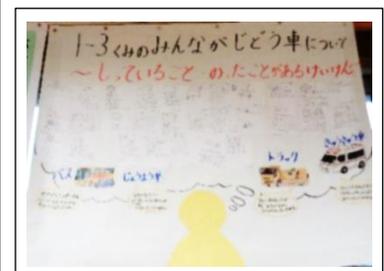
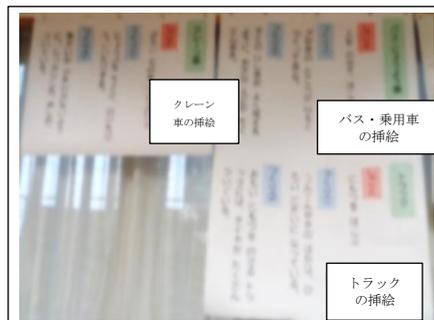


写真4 教室掲示物

③ 教材文の読み取りにおける活動の工夫

「問い」と「答え」、「しごと」と「つくり」の関係を捉えることができるようになるために、文章の中の重要な語や文に線を引いたり○でかこんだりした。「しごと」は赤、「つくり」は青で色分けをしながら、視覚的に工夫して整理をした。また、文章と挿絵を対応させて理解できるように、挿絵の「つくり」の部分に印を付けながら考える時間を設けた。

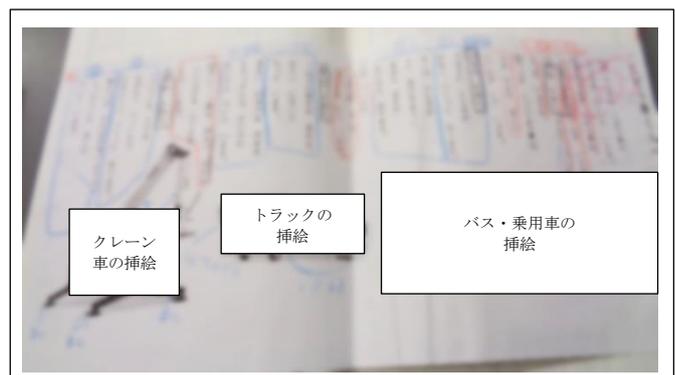


写真5 児童が印を付けた教材文

④ 思考ツールの活用

4つの自動車を比較するための手立てとして、思考ツールであるベン図を活用した。教材文に出てきた4つの自動車の特徴を書き出し、それぞれどのような共通点・相違点があるのかを整理することができた。最後に「4つの自動車全てに共通している自動車のひみつとは何だろう。」という発問をしたことから、「しごと」と「つくり」の関係について考えることにつながった。

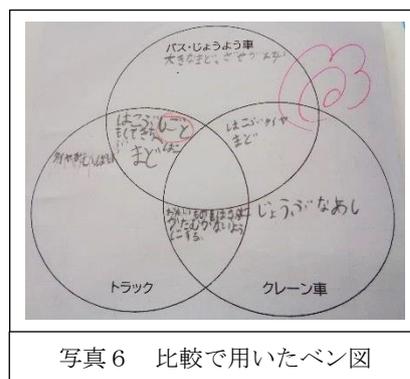


写真6 比較で用いたベン図

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

○ 言葉の理解が難しい

→言葉の意味や使い方を全体で確認

「荷台」や「座席」など児童が普段使わない言葉も出てくるため、意味が分からず自動車のどこを示しているのか理解できない児童が見られた。その際には、意味を知っている児童に説明をさせる機会を設けた。挿絵を指さしながら、「荷台は荷物をのせるこの部分のことです。」「座席は、自動車に乗る人が座る席のことです。」というように子どもの言葉で言い換えながら説明させた。理解が難しかった児童も、他の児童の言葉で挿絵と結び付けながら説明をしてもらったことで、理解につながったと考える。また、「のびたりちぢんだりする」など言葉の使い方については、動作化を取り入れて体験しながら理解できるような手立てを取り入れた。

○ 「しごと」と「つくり」の関係に気付くことができない

→「そのために」に着目する

児童は、「そのために」という言葉が、重要な言葉であるため何度も使われていることに気付くことができた。その上で、どういう時に使う言葉なのかを、児童が身の回りで使っているものを使って例を挙げながら考えることで理解につながっていった。「ものさしは真っ直ぐ線を引くことができる道具だ。そのために、ものさしは曲がらないような硬くて真っ直ぐとした形をしている。」というように、「そのために」という言葉を使った例文を提示することで、「しごと」のために「つくり」が工夫されていることに気付くことができたようになった。

○ 自分の知識や経験を想起することが難しい

→写真の提示と考えの交流

教材文の写真だけでは、具体的に経験を想起することができない児童が見られた。そのため、乗用車の色々な角度からの写真や町を走っているバス・幼稚園バスなどの写真を見せて、思い起こすことができるようにした。さらに、それらの写真を見た他の児童の知識や経験を聞くことで、「自分も見たことがある」と思い起こすことができていた。教師が個別に対話しながら知識や経験を引き出す手立ても講じた。

7 評価の実際

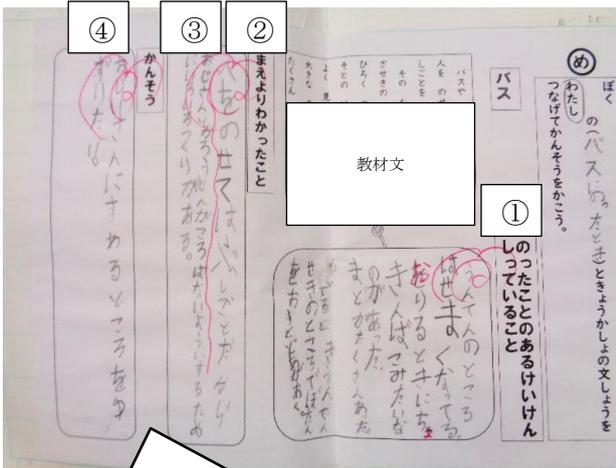
(1) 評価の具体

[思考・判断・表現①]

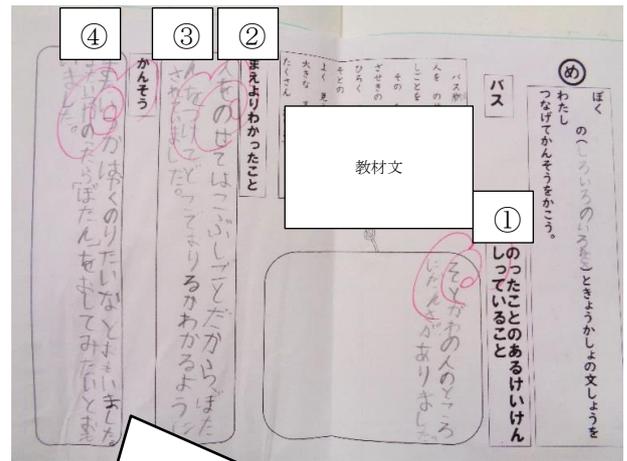
「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。

- ① 既にもっている知識と経験を思い起こすことができている。
- ② 教材文から「しごと」と「つくり」の関係を捉えて、まえよりわかったことにつなげることができている。
- ③ 既にもっている知識や経験と結びつけて解釈することができている。
- ④ 自動車のひみつについて解釈したことをもとに感想をもっている。

「おおむね満足できる」状況 (B)



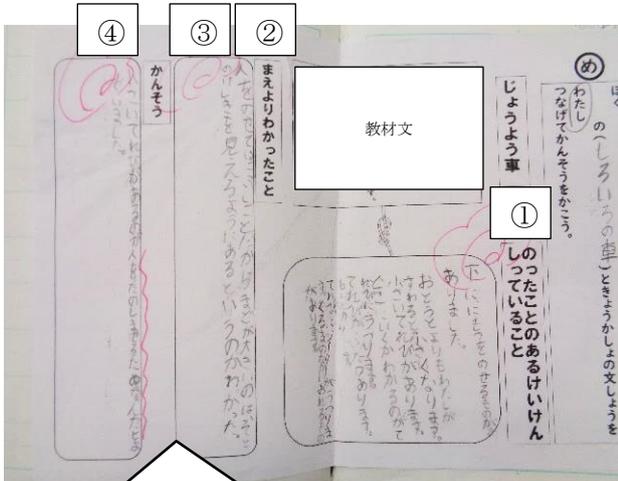
人をのせてはこぶしごとだから、ろうじんの人がころばないようにするためにいろいろなつくりがある。おじいさんにすわるところをゆずりたい。



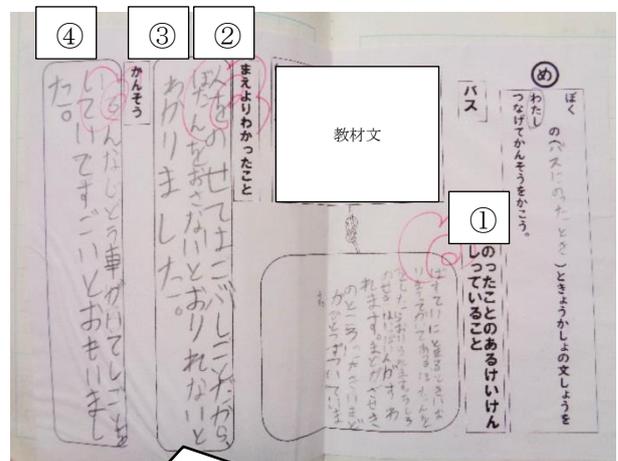
人をのせてはこぶしごとだから、ボタンをつけてどこでおりるかわかるようにされている。はやくのって、ボタンをおしてみたいとおもいました。

自動車の「しごと」と「つくり」について、経験を基に解釈することができている。解釈したことをもとに感想をもつことができている。乗る人の視点で「つくり」についての思いが書かれている。

「十分満足できる」状況 (A)



人をのせてはこぶしごとだから、大きなまどがついて外のけしきが見えるようになっていて、小さなテレビがついている。小さいテレビがついてあるのが、人をたのしませるためだとおもいました。



人をのせてはこぶしごとだから、ばすていにとまるとき、とまりますとかいていあるボタンをおさないとおりられない。うしろのせきはいっぱいすわれる。いろいろな(つくり)のじどう車がいってしごとをしていてすごいとおもいました。

自動車の「しごと」と「つくり」について、経験を基に解釈することができている。解釈したことをもとに感想をもつことができている。自動車の「しごと」と「つくり」の関係をもとに、自動車にはどんなひみつがあるのかについて自分の考えが具体的に書かれている。

「努力を要する」状況（C）にあると評価した児童3名は、文章の内容と自分の経験を結び付けて「まえよりわかったこと」を書くことはできたが、精査・解釈の段階に留まり、感想をもつことができなかった。そのような児童には、「自動車にはどんなひみつがありましたか?」「もっと知りたいことはなにかな?」等の質問を投げかけ、児童が言葉にできたことを書くように指導した。

(2) 児童の評価

「十分満足できる」状況（A）

4人（10%）

「おおむね満足できる」状況（B）

25人（80%）

「努力を要する」状況（C）

3人（10%）

8 成果と課題

(1) 成果

- ・自動車クイズや並行読書を取り入れたことで、単元に入る前に児童の学習意欲を高めることができた。
- ・経験が少なく、既にもっている知識や経験を思い起こすことが難しい児童に対して、写真を用意したり他の児童の意見を聞いたりという手立てを講じたことで、全員が同じスタートで学習に入ることができた。
- ・学習の足跡を掲示したことで、前時の学習を振り返りながら進めることができた。
- ・ワークシートを教材文と自分の経験とを結び付けて解釈できるような形に工夫したため、教材文から離れることなく、考えを深めることができた。また、「まえよりわかったこと」を書く際の手立てとして、書き出しを「〇〇のしごとだから」と指定することで、自動車はしごとに合わせてつくりになっていることを意識できるようにした。

(2) 課題

- ・文章の内容と自分の経験を結び付けて得られた「まえよりわかったこと」が、感想に生かされていない児童がいた。
→教師のモデルを示したり、共通の経験からどのように感想に生かしていくかを考えたりして、感想のもち方を身に付けていく。
- ・考えの形成において、どこまで書けると目標を達成したと言えるのか、児童の中で明確ではなかった。
→児童とともに目指す姿を決めておく。教師と児童とがねらいを共通認識することで、目標が明確になり、より意欲的に活動に取り組むことができる。

(3) 今後に向けて

- ・言葉の意味や使い方にこだわった指導を続けていく。児童が教材文の言葉を大切にしながら表現することができるようにする。
- ・本単元に限らず、教材文と児童の既にもっている知識や経験とを結びつけて、考えを深める学習を繰り返し行っていく。自分の経験を思い起こすことには慣れてきているため、自分の力で考えを形成していけるように、共通点・相違点を整理した上で関係性に気付くことができるようにしていきたいと考える。
- ・地域の図書館とも連携しながら、児童が様々な本や図鑑を手にとれるようにする。また、学習においては本や図鑑、具体物、写真などを効果的に使いながら、実体験を伴った文章の内容の理解につなげていきたい。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
はたらくじどう車 しごととつくり① ブルドーザー ショベルカー	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり② しょうぼう車 きゅうきゅう車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり③ パトカー 白バイ	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり④ バス トラック	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり⑤ ごみしゅうしゅう車 ゆうびん車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり⑥ じょうよう車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらく車のしくみ・はたらき・できるまで① しょうぼうしょの車 はしご車 ポンプ車 きゅうきゅう車	こどもくらぶ (編集)	岩崎書店
はたらく車のしくみ・はたらき・できるまで② けいさつの車・きんきゅうの車 パトロールカー きんきゅう自動車	こどもくらぶ (編集)	岩崎書店
はたらく車のしくみ・はたらき・できるまで③ 工事の車 ブルドーザ 油圧ショベル クレーン車	こどもくらぶ (編集)	岩崎書店
はたらく車のしくみ・はたらき・できるまで④ くらしをささえる車 ごみしゅうしゅう車 いどうはんばい車 のうさぎょう車	こどもくらぶ (編集)	岩崎書店
はたらく車のしくみ・はたらき・できるまで⑤ 人やものをはこぶ車 バス トラック コンクリートミキサー車	こどもくらぶ (編集)	岩崎書店